



動物園の夜 / パネル・紙・アクリル絵具・オイルパステル / 1000 mm x 1000 mm / 足田義明

2017 April~June

トポスパブリック 足田義明の絵画

2017年4月より、北島眼科クリニック「待合室」にて現代絵画作品を展示する、トポスパブリックを始動する運びとなりました。

クリニックと現代作家（画家）が互恵的に社会環境を創出するこの企画は、来院された方々は勿論、医療従事者ならびに、絵画作品の癒しの機能性をはかる画家を交え、従来の共有空間をよりよきものとするための試みとして発想されました。三ヶ月毎に入れ替わる作家作品を、お楽しみいただければ幸いです。

医療法人 北島眼科クリニック 理事長 北島秀一



医療法人北島眼科クリニック
〒381-0042 長野県長野市稲田3-13-1
phone: 026-213-0205 / fax: 026-213-0206
<http://kitajima-eye.com>

TOPOS
<http://toposnet.com>



疋田義明 Yoshiaki Hikita

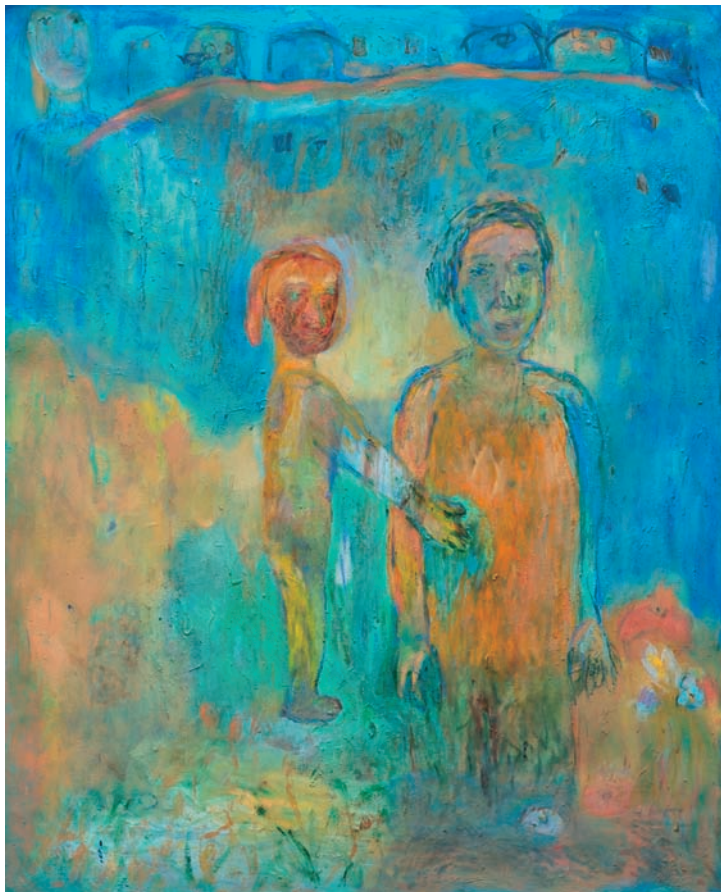
1992 長野市生まれ
武蔵野美術大学油絵学科卒。卒業制作 優秀賞

個展

トポス高地 2015 / アリコ・ルージュ
トポス高地 2016 / アリコ・ルージュ

グループ展・企画展

2014 シーズプログラム東京 第6回「WHERE I' M CALLING FROM」 数寄和 / 東京
2015 N-ART / ガレリア表参道 / 長野市
D15 / フラットファイルスラッシュ / 長野市
ナガノオルタナティブ 2015 / FFS_Warehouse Gallery / 長野市
2016 @ 萱 by Blanc 2016 / 千曲市
ミゲル & ジュリアン & ローレンのグレー・オブ・グレー Gallery NIW / 東京
夏季企画展「内在する触感」 / 志賀高原ロマン美術館
D16 / フラットファイルスラッシュ / 長野市
T16 / フラットファイルスラッシュ / 長野市



ティム・ジェニソン（フェルメールの謎）が解析し仮説実践したフェルメール（1632~1675）の技法、あるいは五姓田義松（1855~1915）が鉛筆を握りバターチーズ同様の油絵具でレンブラントが憑依したかの光と影の量的観察を水筆戯画意識が蔓延する島国で行成りはじめたように、時の辺境の唐突ともいえる関わり方（態度）が、文脈の跳躍的な系を広げ持つ。

「描く」という絵画を運動で捉えるニュートンの古典力学（スタティックな逆説弁証）ではなく、「何をするのか」という量子力学的（微視的な物理現象＝状況状態）なアプローチで、絵画を考える者は少なくない。素材論として支持体や与え置く色顔料などの扱いを、単なるイメージ（妄想）へ繋げる往復運動ではなく、自立した状況認識（知覚）のモデルとして、世界把握をする場合、画面に見えてくるものは行為者の精神とかの投影ではなく、むしろその逆であり、外側の出来事となって跳ね返り行為者を含む眺める者らを別次元牽引するものだ。

観察の記録（見えたことの反芻変換）ではない描きのほとんどは、支持体（画布）へ絵具を与える仕草（練ったり擦ったり重ねたり削ったり）そのものが、萌芽しつつ醗酵する素材特性へ没入する行為者の、所謂前戯から狼狽えと決心、あるいは挫折を含み込む恣意総体として素材展開するだけのことにすぎない。故に某らの形象があったとしてもそれは口実（プレテクスト）ともいえる。

疋田義明の上述したような「糞まみれ」に放たれた絵画の豊かさは、その奔放な素材との戯れの無邪気さに起因しているが、同時に稚拙で偶発的な恣意でしかない脆弱さを併せ持つ。だがどうだろう、この忌まわしいような虚偽の情報錯綜する時代で、ルオー（1871~1958）を想起させる目的などないミスマッチな純然たる遊戯の画面は、何かを救済する気配を孕んでいると感じるのは大袈裟だろうか。社会へのコミットメントとして「提案」される多様な絵画群とは異なり、冒頭に示した「唐突」を、この無邪気な戯れ（口実的には家族を描いている）が可能な個人主義と結び合わせると、近代的な場所論（西洋・東洋）

を遙か彼方に走り抜けた、人間的「昂揚」の静かな顛われとして、彼が描き続けることが出来るならば、世界はまだ大丈夫だ健全はここはあるじゃないかと思わせる。

但し、タブロー（仏）が、壁画でなく板や画布に描かれた完成絵画を示す言葉として自立するのは、質的な顛われの確固たる所以（次元認証）があるからで、単に其処に筆や絵具が残されているからではない。人間の所為痕跡（意志）が契機となった出来事として知覚される状況へ踏み出していることを、行うものは大いに自覚すべきであり、故に画家は、「描き」自体を混沌との戯れだけに停まらせるものではないということは、フェルメールも五姓田も示し遺している。

トポス高地 2016 個展概説より / 文責 町田哲也（トポスパブリック企画）

トポスパブリック @ 医療法人北島眼科クリニック 2017 スケジュール

2017年 7月~9月 : 徳永雅之 作品展示
2017年 10月~12月 : たかはしびわ 作品展示
2018年 1月~3月 : 吉村正美 作品展示

*年間4作家のトポスパブリックドキュメントは2018年3月冊子化の予定です。